

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3577200920		
法人名	有限会社 龍 泉		
事業所名	グループホーム 秀東館 虹		
所在地	山口県岩国市周東町下久原1733		
自己評価作成日	平成27年11月8日	評価結果市町受理日	平成28年5月11日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度ホームページで閲覧してください。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 やまぐち介護サービス評価調査ネットワーク		
所在地	山口県山口市吉敷下東3丁目1番1号 山口県総合保健会館内		
訪問調査日	平成27年12月3日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

施設の建物は現代建築による高い天井や天窓からの自然な光や風を取り込むことができ、解放感に溢れ、明るく心が和む造りとなっています。利用者の状態は日々変動がありますが、利用者や家族から率直な声を聞くことが出来るように、優しく寄り添います。現代社会が忘れかけている家族の温かさを大切にして、ひとつ屋根の下で違った個性を持った人々が集まり生活をする。利用者は私達の父であり母である。また利用者同士は兄弟姉妹でもある。私達が目指す“大家族主義”の理念を基に、共同生活住居(グループホーム)において、食事・排泄・入浴等の介護や日常生活上のお世話をを行い、能力に応じ(手を出し過ぎず)自立した生活が出来るように取り組んでいます。家族や地域住民と交流を図り、拘束感のない開放された体制作りをしています。地域に密着した開かれた施設として、これからも関係づくりを継続しながら、家族・地域住民・職員で利用者の支援が出来るよう努めていきます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

法人の栄養士によるバランスのとれた献立でユニットごとに三食とも食事づくりをされています。地元で採れた米を1年分確保され、食材は毎日利用者と一緒に買いに行かれ、新鮮で旬の物を使用されています。利用者の好みを取り入れ、状態に合わせて食べやすく工夫され、彩りや盛りつけ、器にも配慮して見た目にも美味しく食べられるように支援されています。野菜の皮むきやテーブルふき、下膳、食器洗いなど一人ひとりの利用者の出来ることを職員と一緒にされ、利用者と職員は同じテーブルを囲んで楽しく食事をされています。月1回の外食や弁当持参でハイキングに行かれたり、施設の玄関でそうめん流しをされたり、みんなでおやつをつくられたり、利用者が食事を楽しめるように取り組んでおられます。運営推進会議は地域からの参加者が多く、事業所の活動報告に対しての質問や意見など活発に意見交換され、議事録に記録して、意見を活かすように努めておられます。運営者は毎月の全体会議に参加され、現場の職員の意見や提案に耳を傾け、運営に活かしておられます。資格取得の支援など職員を育てる取り組みをしておられます。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
57	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:24. 25. 26)	○	1. ほぼ全ての利用者の	64	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:10. 11. 20)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 利用者の2/3くらい				2. 家族の2/3くらい
			3. 利用者の1/3くらい				3. 家族の1/3くらい
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない
58	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:19. 39)	○	1. 毎日ある	65	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2. 21)		1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度
			3. たまにある			○	3. たまに
			4. ほとんどない				4. ほとんどない
59	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:39)	○	1. ほぼ全ての利用者が	66	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:5)	○	1. 大いに増えている
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 少しずつ増えている
			3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない				4. 全くない
60	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:38. 39)	○	1. ほぼ全ての利用者が	67	職員は、活き活きと働けている (参考項目:12. 13)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
61	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:50)	○	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
62	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:31. 32)	○	1. ほぼ全ての利用者が	69	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない
63	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:29)	○	1. ほぼ全ての利用者が				
			2. 利用者の2/3くらいが				
			3. 利用者の1/3くらいが				
			4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	馴染みの地域の中で、その人らしく暮らしていけるように、日常的に行うミーティングの場で“大家族主義”の理念の基に、利用者を自分の家族と同じ対応を心掛け、支えていくサービスの実践に努めている	地域密着型サービスの意義をふまえた事業所独自の理念をつくり、事業所内に掲示している。職員はユニット会議や毎日のミーティング、日常業務の中で話し合い、理念を共有して実践につなげている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	事業所は、清掃や敬老会等の地域の活動に積極的に参加している。又地域に向けて事業所の情報を発信し、行事(お花見・花火鑑賞会・運動会・クリスマス会)に参加して頂きながら地域住民との交流に取り組んでいる	年1回の清掃活動には管理者が参加している。利用者は、神社の春と秋の祭りに参加したり、地元の利用者数名が地域の敬老会に参加している。法人施設合同の運動会には地域の人も競技に参加して利用者と交流している。地域の花火大会を家族や地域の人と施設内から見学している。スーパーに食材の買い物に出かけたり、近所に散歩に出かけて地域の人と交流している。傾聴や日本舞踊、フルーツ演奏、マジックショーなどのボランティアや中学生の来訪がある。毎月地域向けの事業所だよりを自治会(7班)に回覧して、行事(花見、花火大会、地域交流運動会、クリスマス会、火災避難訓練など)への参加を呼びかけ地域の人や子供達の参加があり、利用者と交流している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議において現状の報告を行い、その中で認知症に関連している研修を紹介しながら、意見交換として、地域から出された相談等に応じている		
4	(3)	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	評価を通じて、支援の振り返りや見直しを行うことが出来ることを説明している。評価における問題点を見極めて、問題解決に向けて各人がスキルアップできるように、話合いの場を設けている	管理者は全職員に評価の意義を説明し、管理者が作成した自己評価と自己評価するための書類を事務所のデスクの上に置き、職員に自己評価における気づきや感想を記入してもらっている。前回の評価結果を受けて、段階を追って定期的な研修会を開催するなど改善に取り組んでいる。	・全職員での自己評価への取り組みの継続

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では、事業所の取り組みの報告や情報交換だけでなく、メンバーから率直な意見を出して頂き、サービスの向上に活かせるよう取り組んでいる	会議は2ヶ月に1回開催し、事業所の活動報告や入退居の状況、行事案内、月例会議の報告、職員研修、事故報告を行い、意見交換して記録している。避難訓練時の利用者の安全の確保について意見が出ており、意見を活かすように努めている。	
6	(5)	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	岩国市地域密着型サービス事業者連絡協議会を設立し、協議会で出た意見等は総会開催時に市町担当者に報告・相談する等、協力関係を築けるよう取り組んでいる	市の担当者とは電話や出向いて相談をして助言を得たり、情報交換しているなど、協力関係を築くように取り組んでいる。地域包括支援センター職員とは運営推進会議時に情報交換したり、相談するなどして連携を図っている。	
7	(6)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員全体で、身体拘束によって利用者が受ける身体的又は精神的な苦痛を理解し、利用者一人ひとりの思いや、持っている身体の力を活かしていけるように、鍵をかけずに安全に過ごして頂けるよう取り組んでいる。禁止の対象となる行為については研修において職員全体に説明して、情報の共有を図っている	職員は毎年内部研修で身体拘束について学び、禁止対象となる具体的な行為を正しく理解して、身体拘束しないケアに取り組んでいる。日頃の業務の中でスピーチロックに気づいた時はその都度管理者が注意している。玄関の施錠はしていない。	
8		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	県や市町の研修に参加して得た情報は職員全体に報告して、不適切なケアが当たり前にならないよう注意を払い虐待防止に努めている。尚、虐待を発見した場合の対応法は事業所で周知徹底している。		
9		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	利用者が成年後見制度を利用できるように、利用者や家族等の情報を関係機関へ提供して橋渡しをしている。職員全体で権利擁護に関する制度の知識を得る機会を作っている		
10		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には事業所の重要事項を丁寧に説明している。利用者や家族の疑問点や不安等が引き出せるよう話をしながら、事業所で出来ること、出来ないことを説明して、納得して契約して頂けるよう取り組んでいる		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等からの相談、苦情の受付体制や処理手続きを定め周知するとともに、意見や要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情の受付体制や第三者委員等については契約時に説明をしている。又家族会を開催して、より多くの意見や要望を出して頂けるよう配慮をしている。	苦情の受付体制や処理手続きを定め、契約時に家族に説明している。利用者や家族からの相談や苦情は面会時や電話、運営推進会議時や家族会で聞いている。職員の言葉づかいや対応が気になるとの意見があり、ミーティングで話し合い、改善に取り組んでいる。	
12	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ユニット会議や日常的なミーティングにおいて、現場職員からの意見や情報を取り入れ、一緒に話し合いをしながら、職員の職務体制や配置異動を検討している	管理者は月1回の全体会議やその後のユニット会議、毎日のミーティングで職員の意見や提案を聞く機会を設けている他、日常の業務の中でも出しやすいよう雰囲気づくりをしている。代表者が会議に出席して、職員の意見や提案を直接聞いて、運営に反映させるように努めている。	
13		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は管理者や職員の日頃の努力や、具体的な実績、勤務状況等を把握して、職員の処遇に反映させ向上心を持って働けるような配慮や対応をしている		
14	(9)	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	代表者は職員育成の重要性を認識して、職員全体が支援の質を向上させていけるように、段階に応じた学びの機会を設けている。又働きながら、技術や知識を身につけていけるよう支援をしている	外部研修は、段階に応じて必要な人に参加を機会を提供し、4名が参加している。受講後はレポートを提出し、内部研修で復命し、全職員で共有している。内部研修は、年間計画を立て、身体拘束、虐待、感染症予防、認知症ケア、食中毒予防などのテーマで、看護師や管理者、研修の受講者が講師となって、全体会議の後30分程度実施している。資料は全職員に配布している。新人職員は法人研修を受講している他、資格取得の支援など、職員が働きながら学べるように支援している。	
15		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	岩国市地域密着型サービス事業者連絡協議会を設立し、同じサービスを提供する他の施設との交流や連携を図り、協働により質向上に努めている		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
16		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人と向き合い、本人がおかれている状況を理解するよう心掛け、困っていることや不安なことに耳を傾けながら安心して頂けることにより、信頼関係を作っていけるよう努めている		
17		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	利用者本人の意思とは区別して、家族等の思いを受け止め、安心して頂けるよう対応することで信頼関係づくりを進めている。事業所として出来ること、出来ないことは、納得して頂けるような説明に努めている		
18		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人や家族の思いや状況等の確認をして、出来ることはすぐに実行している。又傾聴等のボランティアを導入している		
19		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員と利用者は介護されるといった一方的な関係を脱し、職員と利用者が一緒に過ごし、時間をかけて関わっていく中で、深く本人を知り、支え合う関係づくりに努めている		
20		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族の苦しみや喜びを受け止め、本人の生活を共に支援していく関係づくりに努め、利用者の生活や身体状況について、きめ細やかに伝えている		
21	(10)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	知人や友人に会いに来てもらったり、行きつけの店へも出かけていく場面を作り、出来るだけ地域との接点ももて、関係が途切れないよう努めている	友人や知人、親戚の来訪がある他、電話の取り次ぎや手紙での交流を支援している。出張理美容の利用、天神祭や初詣、近くのスーパーに買い物に出かけている。家族の協力を得て、墓参りや葬儀への出席、外食、ドライブ、一泊旅行など、馴染みの人や場所との関係が途切れないように支援している。	
22		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	集団の中で利用者の仲の良し悪しに配慮して、孤立せずに、共に暮らしを楽しめるような支援に努めている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
23		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	事業所のサービス利用が終了しても、経過を見守ったり、必要に応じてフォローをしている。又地域住民として立ち寄って頂く等、関係を大切にしている		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
24	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人ひとりの思いや意向について関心を持ち把握できるように努めている。又本人が何をしたいか等、アプローチして探りながら、対応をしていけるよう努めている	アセスメントシートを活用している他、日々の関わりの中での会話や行動をケース記録に記録し、職員間で共有して思いや意向の把握に努めている。困難な場合はミーティングで話し合い、本人本位に検討している。	
25		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	一人ひとりの利用者について、その人独自の生活歴やライフスタイルを知り、地域の中で、どのような関わりがあり、どのようなサービスを受けてきたかの把握に努めている		
26		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	本人の出来ることやわかることを、生活の中、又行動の中から感じとれるような関わりを持てるように努めている		
27	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	設定した期間での見直しを行っている。又本人や家族等からの要望や、身体的・精神的な変化に応じて介護計画が作成できるよう、意見やアイデアを出し合い、話し合いの場を設けている	管理者、計画作成担当者を中心に月1回のユニット会議でカンファレンスを開催し、利用者や家族の意向を参考にして話し合い、介護計画を作成している。3ヶ月ごとにモニタリングを実施して見直ししている他、状況の変化に応じてその都度本人や家族から意見を聞いて計画を見直ししている。	
28		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別の記録を作成し、食事・水分量・排泄状況を共有して、日々の支援に活かせるよう努めている。又漫然とした記録にならないように、支援を具体的に記載している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者と家族が安心して安全に暮らし続けていくために、医療面では看護師と連携をとっている		
30		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	利用者が安心して暮らし続けられるように、本人の通っている医療機関や店等を把握し、外出支援している。又ボランティア等の協力を呼び掛けている		
31	(13)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族等の希望する医師による診療を受けられるよう支援し、事業所の協力医を掛かりつけ医とする場合は、本人と家族の同意を頂き、納得して適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族の希望するかかりつけ医の他、協力医療機関をかかりつけ医とし、他科受診も含めて事業所で受診の支援をしている。看護師を配置し、健康観察や医療機関への情報提供をしている。協力医療機関の月1回の往診や2ヶ月に1回歯科医による訪問診療があるなど、適切な医療を受けられるように支援している。	
32		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	事業所に看護職を配置し、日常的に介護職と看護職の関係を密にしている。又異状がある場合は掛かりつけ医等に相談しながら、一人ひとりの医療の支援や健康管理につなげている		
33		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	出来るだけ短期間に治療を行い、スムーズに退院出来るように、病院関係者には、なるべく本人の混乱が少なくなるように、本人の普段の状況や特徴などを伝えている		
34	(14)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	本人と家族が安心出来て納得が得られるように、本人や事業所の状況の変化ごとに話し合いをして、方針を共有して取り組んでいけるよう努めている	重度化の指針を作成し、契約時に事業所でできる対応について家族に説明して同意を得ている。重度化した場合はその都度、家族、かかりつけ医、関係者で話し合い、方針を決めて共有して支援に取り組んでいる。かかりつけ医の毎日の往診での支援や家族の協力を得て2件の看取りを行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(15)	○事故防止の取り組みや事故発生時の備え 転倒、誤薬、行方不明等を防ぐため、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組むとともに、急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身につけている。	緊急時のマニュアルを作成している。又職員全体が応急手当に関して、定期的に訓練を行い、実際の場面で活かせる技術の習得に努めている	ヒヤリハット・事故報告書に発生状況を記録し、その都度ミーティングで対応策を話し合い、毎月の全体会議、ユニット会議で対応策を検討し、法人の月例会議で報告して、再発防止に努めている。緊急時のマニュアルを基に看護師や管理者が講師となって研修を行っているが、全職員が応急手当や初期対応の実践力を身につけるまでには至っていない。	・全職員が実践力を身につけるための応急手当や初期対応の定期的な訓練の継続
36	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	昼夜を通じて様々な災害発生を設定して、避難誘導の訓練を行っている。地域住民に呼びかけて、協力体制を築いている	年2回、昼と夜を想定した火災避難訓練を実施しており、1回は消防署の協力を得ている。運営推進会議で災害時の対応について話し合い、近隣住民2名が避難場所での利用者の見守りをするなど協力を得ている。事業所が地域住民の避難場所として協力することを自治会に話しており、地域との協力体制を築くように取り組んでいる。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
37	(17)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員が利用者に向けて発している言葉の内容や語調等が、利用者の誇りを傷つけたり、プライバシーを損ねるものになっていないか確認しながら、改善できるよう職員間で声かけしながら取り組んでいる	人格の尊重やプライバシーの保護についてマニュアルをつくり、ミーティングで話し合っている。日常の業務の中で職員間で確認しながら、誇りやプライバシーを損ねない声かけや対応をしている。個人記録等は保管し、取り扱いに注意している。	
38		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	手を出しすぎないようにして、本人の行動や言葉を待つよう心掛けている。又利用者とは過ごす時間を通して、日常の中で本人が選べるやすい環境を作っていくように働きかけている		
39		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員の都合によるスケジュールに利用者の生活を合わせるのではなく、利用者が独自に晩酌を楽しんだり、おしゃべりしたり、利用者のペースに沿って見守りながら支援している		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
40		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	外出や行事に合わせて、職員と利用者が一緒に服装を決めたり、女性であればお化粧品等の支援をしている		
41	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	旬の食材や新鮮な物を取り入れ、利用者と職員が同じ食卓を囲んで、同じ物を食べている。又一人ひとりの力を活かしながら、調理の準備や片付け等の出来ることをしている	法人の栄養士によるバランスのとれた献立で、三食ともユニットごとに食事づくりをしている。地元の米を1年分確保しており、食材は毎日買いに行くことで新鮮な旬の物を使用し、家族からの野菜の差し入れもある。利用者は食材の買い物や野菜の下ごしらえ、テーブル拭き、お茶を袋に入れる、下膳、食器洗いなどできることを職員と一緒にしている。利用者の状態に合わせて、ミキサー食や刻み食、おかゆ、おにぎり等食べやすい形状に配慮し、食器や彩りや盛りつけで見た目にも美味しく食べられるように工夫している。利用者と職員は同じテーブルを囲んで会話しながら同じ物を食べている。誕生日には本人の希望のメニューをとり入れ、玄関広場でのそうめん流しやおやつ、弁当持参でのハイキングや花見、外食、定期的なおやつづくり(ホットケーキ、桜餅)など、食べることを楽しむことができるように工夫して支援している。	
42		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者一人ひとりが一日全体で食事の量や飲水量がどの程度摂れているか、職員全体で意識して関わっている。又一人ひとりの状態に応じ、協力歯科医と連携し、食物形態を替えている		
43		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	職員全体が清潔保持や肺炎予防のために、口腔ケアの重要性を理解し取り組んでいる。又一人ひとりの力に応じた歯磨き支援をしている		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	可能な限りトイレで排泄できるように誘導を工夫している。行きたい時にトイレに行くことができるように、本人の生活のリズムに沿った支援に努めている	排泄チェック表を活用して一人ひとりの排泄パターンを把握し、利用者の習慣や生活リズムを活かして、声かけや誘導でトイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援をしている。	
45		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	繊維質の多い食材を取り入れたり、散歩等で身体を動かす運動を働きかけ、自然な排便ができるよう取り組んでいる。又排便状況を掛かりつけ医に相談して連携を図っている		
46	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	利用者の入浴は事業所が決めた曜日や時間になっているが、曜日については希望に沿えるよう支援している。入浴を嫌がる利用者には、言葉かけや対応の工夫して入浴できるように支援をしている	入浴は毎日14時から16時の間可能で、週に3日は入浴が楽しめるように支援している。利用者の体調に合わせてシャワー浴、足浴、清拭などで対応している。入浴をしたくない人にはタイミングをずらしたり、職員が交代したり、声かけを工夫して入浴できるように支援している。	
47		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの状態に応じ、休息を取り入れている。夜間は安心して気持ちよく眠れるように、おむつやパッド等検討している。		
48		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員全体が薬の内容を把握できるよう、薬剤情報を準備している。薬の飲み忘れや誤薬を防ぐための確認をしている。本人の状態の変化があれば掛かりつけ医に報告し、対応する等連携を図っている		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(21)	○活躍できる場面づくり、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	得意分野で一人ひとりの力が発揮して頂けるように、仕事をお願いして、感謝の気持ちを言葉で伝えるようにしている。一人ひとりが役割や楽しみごと等を作り出せるように働きかけている。	貼り絵、ぬり絵、折り紙、季節の飾り、歌、カードゲーム、計算ゲーム、カルタ、ラジオ体操、お笑い体操、ボール投げ、輪投げ、ボーリング、テレビ視聴(のど自慢、歌謡コンサート)、DVD視聴、傾聴ボランティアとの会話、外出レクリエーション、洗濯干し、洗濯たたみ、廊下やフロアを掃除機で掃除、落ち葉掃き、ゴミ袋の名前書き、食材の買い物、野菜の下ごしらえ、テーブルふき、下膳、食器洗いなど活躍出来る場面づくりをして、張り合いや喜びのある日々を過ごせるように支援している。	
50	(22)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	歩行困難な場合でも車イスを活用し、積極的に戸外に出て頂いている。本人の気持ちや希望に応じて、散歩や買い物、又ドライブに出かける等、家族と協力して支援している	周辺の散歩や毎日の食材の買い物、花見、天神祭、イルミネーション見学、公園、みかん狩り、家族の協力を得ての墓参りや葬儀への出席、ドライブ、外食、一泊旅行など、戸外に出かけられるように支援している。	
51		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金の管理出来る人に対しては、お金がある安心感を得るために金銭管理の支援をしている。事業所で利用者の金銭を管理する場合は、都度報告を行い、預り金に関する取扱いについて家族等の合意を得ている		
52		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	手紙や電話のやり取りが自由に行えるよう支援している。話の内容により気兼ねなく話が出来るよう、席を外す等の配慮をしている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
53	(23)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	天井が高く、天窓もあり自然な光や風を取り込める造りとなっている。季節を感じられるような旬の食事を提供し、季節に合った壁画で季節感を感じて頂けるように、意識的に取り組んでいる	天井が高く、天窓からの自然の光でリビングや玄関は明るく、広々としている。木造平屋造りでユニット間は自由に行き来でき、生活空間を広げている。季節の花を飾ったり、壁面に利用者と一緒につくった季節の作品を飾り、季節感を感じることができる。リビングにはテレビ、ソファ、テーブル、イスなどを配置している他、洗濯物がたためる畳スペースもあり、利用者同士が思い思いの場所で過ごしている。台所で調理する姿を見たり、匂いや音を感じることができ、利用者もテーブル拭きや食器洗いを手伝い、生活感を感じることができる。温度や湿度、換気にも配慮して、利用者が居心地良く過ごせるように工夫をしている。	
54		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有空間にテーブルやイス、ソファを置き、畳のスペースでは、畳に座って話をしたりと仲の良い利用者同士でくつろげる環境を作り、居心地のよい空間作りの工夫をしている		
55	(24)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かし、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には馴染みの物を置き、安心して過ごせるよう配慮している。写真や使い慣れた物を見て、自宅との環境のギャップを感じさせないような工夫をしている	ダンスやテレビ、机やイス、衣装ケース、ハンガーラック、本や書道の道具など使い慣れたものや好みの物を持ち込み、家族や愛犬、自分の踊りの写真や習字の作品、干支の人形、散歩時に摘んだ草花を飾って、本人が安心して居心地良く過ごせる工夫をしている。	
56		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	安心して自分から行動出来るような環境作りに努めている。本人にとって、何がわかりにくいのか等の要因を探り、状況に合わせて自立した生活が送れるように工夫している		

2. 目 標 達 成 計 画

事業所名 グループホーム 秀東館 虹

作成日：平成 28年 5月 11日

【目標達成計画】					
優先 順位	項目 番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に 要する期間
1	35	全員の職員が緊急時の応急手当や初期対応ができていない	全職員が応急手当や初期対応の実践力を身につける	全職員が応急手当や初期対応ができるように定期的な研修を行う。その際、演習も取り入れて実践力が身につくような研修を行う	12ヶ月
2	4	全員の職員で自己評価に取り組めていない	全職員で自己評価に取り組む	毎日のミーティングで各項目の考え方や着眼点について説明、記載していく	12ヶ月
3					
4					
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。